

# 石川県地質調査資料整理要領(案)

平成 15 年4月

石 川 県



第1章 1-4

第2章 2-4

第3章 3-4

第4章 4-4

第5章 5-4

第6章 土質試験及び地盤調査結果編 ..... 6-1

1 適用.....	6-1
2 土質試験及び地盤調査の電子成果品 .....	6-1
2-1 土質試験及び地盤調査の電子成果品 .....	6-1
2-2 フォルダの構成 .....	6-2
2-3 フォルダの名称 .....	6-3
2-4 ファイルの命名規則 .....	6-3
3 土質試験及び地盤調査管理ファイル .....	6-4
3-1 土質試験及び地盤調査管理ファイルの構成 .....	6-4
3-2 土質試験及び地盤調査管理ファイルに含める項目 .....	6-5
3-3 土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD .....	6-11
4 電子データシート .....	6-11
4-1 電子データシートのファイル形式 .....	6-11
4-2 電子データシートのファイル名称 .....	6-11
4-3 電子データシートの格納場所 .....	6-12
4-4 ファイルに含めるデータシートの数量 .....	6-12
5 データシート交換用データ .....	6-12
5-1 データシート交換用データのファイル形式 .....	6-12
5-2 データシート交換用データのファイル名称 .....	6-13
5-3 データシート交換用データの格納場所 .....	6-13
5-4 ファイルに含める試験結果の数量 .....	6-13
6 土質試験結果一覧表データ .....	6-14
6-1 ファイルの形式 .....	6-14
6-2 ファイルの名称 .....	6-14

6-3	ファイルに含める試料の数量	6-14
6-4	データフォーマット	6-14
6-5	土質試験結果一覧表データの DTD	6-15
7	添付資料	6-16
7-1	土質試験及び地盤調査管理ファイル(GTST0100.DTD:バージョン 1.00)の構造図	6-16
7-2	土質試験及び地盤調査管理ファイル(GTST0100.DTD:バージョン 1.00)の定義内容	6-17
7-3	土質試験及び地盤調査管理ファイル(GRNDTST.XML:DTD バージョン 1.00)の記入例	6-18
7-4	土質試験結果一覧表データ記入項目	6-20
7-5	土質試験結果一覧表データのフォーマット	6-27
7-5-1	土質試験結果一覧表データのデータ様式	6-27
7-5-2	土質試験結果一覧表データ(ST0100.DTD:バージョン 1.00)の定義内容	6-29
7-5-3	土質試験結果一覧表データの XML(STLIST.XML)の記入例	6-30

## 第 6 章 土質試験及び地盤調査結果編



## 第6章 土質試験及び地盤調査結果編

### 1 適用

土質試験及び地盤調査編は、土質試験及び地盤調査に付随して実施される原位置試験及び現地計測、室内試験の試験・計測結果等に関する電子成果品の作成及び納品に関する事項を定めたものである。

#### 【解説】

ここでは、土質試験及び地盤調査における試験・計測結果等を電子媒体で提出する場合の方法を定めるものである。

## 2 土質試験及び地盤調査の電子成果品

### 2-1 土質試験及び地盤調査の電子成果品

土質試験及び地盤調査の電子成果品については、以下の情報を電子データとして納品する。また、これらの電子成果品の名称を以下のとおり定める。

成果品の種類	電子成果品の名称	備考
データシート	(1) 電子データシート	PDF データ
	(2) データシート交換用データ	電子データシートを作成した基となる電子データが存在し、提出可能な場合に納品する。
	(3) 土質試験結果一覧表データ	XML データ

#### 【解説】

土質試験及び地盤調査におけるデータシートを電子納品する場合、その成果品に対する混乱を避けるため電子成果品の名称を定義した。以下、上記の名称でこれらのデータと呼ぶこととする。

- (1) 電子データシートは、従来の紙のデータシートにかわるものとして、PDF データを納品することとする。なお、納品するデータシートについては仕様書に基づくことを基本とするが、仕様書に記載がないような場合には、受発注者間で協議の上、決定することとする。
- (2) データシート交換用データは、電子データシート(PDF)を作成した基となるデータについて、それらが存在し、提出可能な場合においてのみ、納品することとする。なお、ここで言う電子データとは、表計算のソフトウェアで作成した電子ファイルや専用のアプリケーションで作成した電子ファイル、などを示す。仔細は、「5 データシート交換用データ」を参照のこと。
- (3) 土質試験結果一覧表の電子データフォーマットは、「石川県地質調査資料整理要領(案)平成15年2月版」ボーリング柱状図編で規定していたM様式を「土質試験及び地盤調査編」において納品することとしたものである。なお、入力するデータは実施した試験項目を対象とする。

## 2-2 フォルダの構成

土質試験及び地盤調査における試験結果等の電子成果品は、「¥BORING¥TEST」フォルダに格納する。

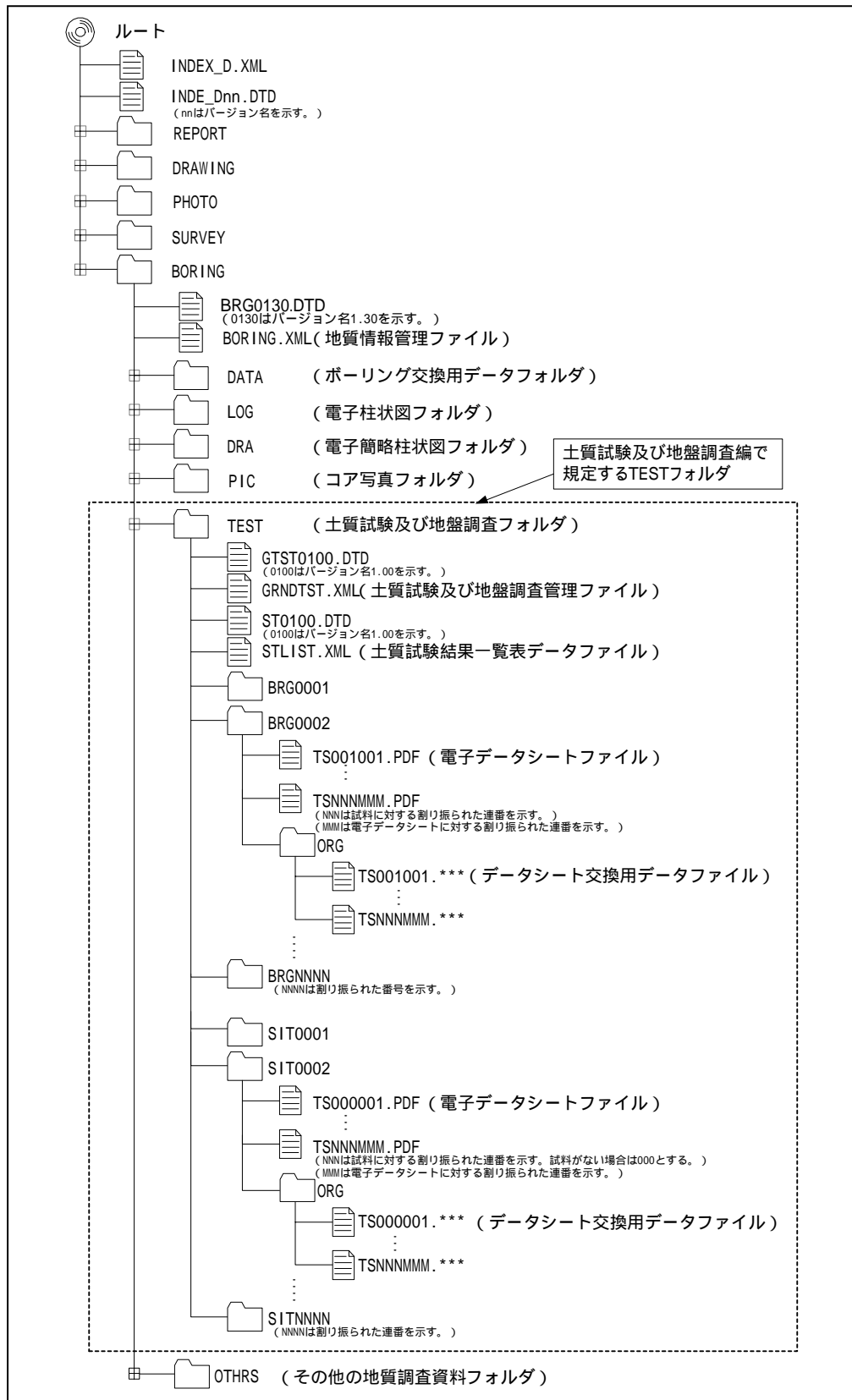


図 2-1 「¥BORING」フォルダの階層構造

### 【解説】

電子データシート(PDF データ)を保存するために、「¥BORING¥TEST」フォルダの下にボーリング、及びサイト毎にサブフォルダ(BRG0001、SIT0002、等)を作成すること。また、データシート交換用データ(PDF データを作成する基となった電子ファイル)用に、前述したボーリング、及びサイト毎のフォルダの下に「¥ORG」サブフォルダを作成すること。

## 2-3 フォルダの名称

ボーリング及びサイトごとのサブフォルダの名称は半角英数字 8 文字(以内)とする。フォルダ名称は半固定とし、以下に定めるところにより、「¥BORING¥TEST」の下に作成するものとする。

(1)ボーリング孔を利用した原位置試験、または、ボーリング孔を利用し採取した試料による室内試験等 :**BRGNNNN** (BRG:Boring)

a) NNNN は「第 2 章 ボーリング柱状図編 5-2 ファイル名称」で規定している当該調査におけるボーリングに対して割り振られた連番(0001 から開始)を用いること。

b) 当該調査以外の調査で実施されたボーリング孔(既設孔)を利用した試験の場合は、NNNN は 0001 から開始する連番を用い、連番の次にアルファベットの「A」を付す。

:**BRGNNNNA** (例:BRG0001A)

(2)上記以外の場合 :**SITNNNN** (SIT:Site)

NNNN は 0001 から開始する連番を用いること。

### 【解説】

上記(1) a)の場合、当該調査におけるボーリング情報と土質試験・地盤調査情報とのリンクを鑑み、NNNN はボーリングに対して割り振られた連番と一致させることとする。例えば、ボーリング連番 0002 と 0005 で試験を実施した場合、サブフォルダとして「BRG0002」、「BRG0005」を作成する。番号が飛び番になっても構わない。

上記(1) b)の場合、利用したボーリング孔が当該調査のものではないことを判別するために BRGNNNN の後に「A」を追加する。NNNN は 0001 から開始する連番を用いること。なお、上記(1) b)の例として、既設ボーリング孔を用いた地下水位測定などが挙げられる。

揚水試験など複数のボーリング孔を用いる試験の場合は、代表的なボーリング孔に対応したサブフォルダを 1 つ作成すること。

## 2-4 ファイルの命名規則

ファイル名は半角英数字 8 文字以内+3 文字以内(拡張子)とする。

### 【解説】

ファイル名は「石川県土木設計業務等の電子納品要領(案)」と同様に半角英数字 8 文字以内+3 文字以内(拡張子)とする。ファイルの名称に使用できる半角英数字は、英大文字(A~Z)、数字(0~9)、アンダーバー(\_)のみである。名称には、漢字・ひらがな等の全角文字は使わない。拡張子

も同様とする。個々のファイル名の命名ルールについては、次節以降の説明にしたがう。

### 3 土質試験及び地盤調査管理ファイル

#### 3-1 土質試験及び地盤調査管理ファイルの構成

「¥BORING¥TEST」フォルダに保存されている電子データを再利用等に活用するために、土質試験及び地盤調査における試験結果等を管理するためのファイル(GRNDTST.XML (GRNDTST:Ground Test))を「¥BORING¥TEST」フォルダに保存する。

##### 【解説】

「¥BORING¥TEST」フォルダに格納する「土質調査及び地盤調査管理ファイル」は、「¥BORING¥TEST」フォルダ内に作成されるサブフォルダ及び保存される電子ファイルを管理するために XML 文章で記述したファイルであり、ファイル名称を半角英数文字で「GRNDTST.XML」とする。「2-2 フォルダの構成」の図 2-1 を参照のこと。

XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、当面は Shift\_JIS とする。

なお、提出する XML 文書には、DTD を埋め込む方式をとらず、外部ファイル参照方式を採用するものとする。

### 3-2 土質試験及び地盤調査管理ファイルに含める項目

「¥BORING¥TEST」に格納する土質試験及び地盤調査管理ファイルに記入する管理項目は、表 3-1に示す通りである。

表 3-1 土質試験及び地盤調査管理ファイルに記入する項目

カテゴリー	項目名	記入内容	データ表現	文字数	記述する数	
属性情報	DTD バージョン	適用した DTD バージョンを記入。	半角数字	127	1 回	
ソフトウェア情報	ソフトウェア名	各種試験結果管理ファイルを作成したソフトウェア名を記入。	全角文字 半角英数字	64	1 回	
	バージョン情報	各種試験結果管理ファイルを作成したソフトウェアのバージョンを記入。	半角英数字	127	1 回	
	メーカー名	ソフトウェアのメーカー名を記入。	全角文字 半角英数字	64	1 回	
	メーカー連絡先	メーカー連絡先(住所、電話番号等)を記入。	同上	127	1 回	
	ソフトメーカー用 TAG	ソフトウェア情報予備項目を記入。	同上	64	1 回	
試験情報	フォルダ名	フォルダ名称(「BRG0001」、「SIT0001」等)を記入。	半角英数字 大文字	8	N 回	
	地点名	ボーリング名、あるいはサイト名(「B-1」、「S-2」等)を記入。	全角文字 半角英数字	64	N 回	
	ボーリング交換用データファイル名	ボーリング交換用データのファイル名(BEDNNNN.XML ファイル)を記入。	半角英数字 大文字	8+3	N 回	
	位置情報	経度	調査位置の経度を記入。経度=度+分/60+秒/3600 として小数点以下 8 桁以上を入力。	半角数字	20	N 回
		緯度	同上(経度を緯度と読替える)。	半角数字	20	N 回
		標高	調査位置の標高(TP.m)を小数点以下 2 桁まで記入。	半角数字	10	N 回
	位置情報コメント	調査位置(ボーリング、あるいはサイト位置)毎に記入すべきその他の情報を記入。	全角文字 半角英数字	64	N 回	
	各種試験情報	電子データシートのファイル名	電子データシートのファイル名を記入。	半角英数字 大文字	8+3	N 回
		データシート交換用データのファイル名	データシート交換用データのファイル名を記入。	半角英数字 大文字	8+3	N 回
		基準番号	試験の基準番号(JGS0***-2000)を記入。	半角英数字 大文字	20	N 回
		規格番号	試験の規格番号(JIS A 12**-****)を記入。	半角英数字 大文字	20	N 回
		試験名称	実施した試験名称を記入。	全角文字 半角英数字	127	N 回
		試料番号	試料番号(名称)を入力。試料のない試験の場合は省略可。	全角文字 半角英数字	20	1 回
		試料採取情報	試料採取情報(乱さない試料、乱した試料)を記入。	全角文字 半角英数字	10	1 回
試験上端深度		試験深度の上端深度を、小数点以下 2 桁まで、GL-m 単位で記入。	半角英数字	10	1 回	
試験下端深度		試験深度の下端深度を、小数点以下 2 桁まで、GL-m 単位で記入。	半角英数字	10	1 回	
試験開始年月日		試験開始年月日を、2002-01-29 の形式で記入。	半角英数字	10	N 回	
試験終了年月日		試験終了年月日を、2002-01-29 の形式で記入。	半角英数字	10	N 回	
試験者	試験者を記入。	全角文字	127	N 回		
各種試験コメント	各種試験毎に記載すべきその他の情報を記入。	全角文字 半角英数字	127	N 回		
コメント	受注者側で各種試験結果に付けるコメントを記入。	全角文字 半角英数字	127	N 回		

:必須入力項目、 :原則的に入力しなければいけない項目、 :任意入力項目

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字は、2 文字で全角文字 1 文字の文字数に相当する。

## 【解説】

土質試験及び地盤調査管理ファイル(GRNDTST.XML)には、「¥BORING¥TEST」フォルダに保存されている電子データファイルを再利用等に活用するために、土質試験及び地盤調査結果を検索・管理するための基本的な検索情報を含める必要がある。項目は表 3-1のとおりとした。XML ファイルの記入例については、「7.3 土質試験及び地盤調査管理ファイルの記入例」を参照のこと。各項目の説明を以下に示す。

### (1) フォルダ名

「2-3 フォルダ名称」に従い、各地点ごとのフォルダ名称(「BRG0001」、「SIT0002」、等)を記入する。

### (2) 地点名

ボーリング名、あるいはサイト名(B-1、S-1、等)を記入する。当該調査で実施したボーリングについては、「第 2 章 ボーリング柱状図編 8-4-2 A 様式:標題情報」で入力するボーリング名と一致させること。

### (3) ボーリング交換用データファイル名

「第 2 章 ボーリング柱状図編」にしたがって作成されるボーリング交換用データのファイル名(BEDNNNN.XML)を記述する。既設ボーリング孔を利用した試験・調査、あるいはボーリング孔を利用しない試験・調査の場合は、ボーリング交換データのファイル名の記述を省略することとする。

### (4) 位置情報

ボーリング、あるいはサイトの位置情報として、1.緯度、2.経度、3.標高、4.位置情報コメント(位置情報に関するコメント)を記述する。

ボーリングの場合は、孔口の位置する経緯度、及び孔口標高を記入する。サイトの場合は、代表となる位置の経緯度、標高を記入する。標高値については T.P.(トウキョウペール)表記とする。

また、当該調査で実施したボーリングについては、「第 2 章 ボーリング柱状図編 8-4-2 A 様式:標題情報」で入力する経度・緯度と値を一致させること。

### (5) 電子データシートのファイル名

「4-2 電子データシートのファイル名称」に従い、電子データシートのファイル名(TSNNNMMM.PDF)を記入する。

### (6) データシート交換用データのファイル名

「5-2 データシート交換用データのファイル名称」に従い、データシート交換用データのファイル名(TSNNNMMM.拡張子)を記入する。

### (7) 規準番号/規格番号

地盤工学会で定められたデータシートを使用する場合は、JGS 規準番号(JGS 0\*\*\*-2000) を記述する。実施する土質試験及び地盤調査方法が JIS によって定められている場合は JIS 規格番号(JIS A 12\*\*-\*\*\*\*)を記述する。参考のために地盤工学会で定められている基準番号と JIS 番号を

表 3-2～表 3-4に示す。なお、基準番号、規格番号がない場合は省略する。

#### (8) 試験名称

JGS、JIS で定められている試験については、表 3-2～表 3-4にしたがい、試験名称を正しく記入する。基準・規格外の試験については一般に広く使われている名称を用いることとする。なお、表 3-2～表 3-4から、試験名称の記載を行う場合、語尾の「方法」は名称に含めないこと。

例:「土粒子の密度試験方法」は「土粒子の密度試験」と記述する。

#### (9) 試料番号

「D-1」,「T0001」などの試料番号(名称)を入力する。当該調査のボーリング孔から採取した試料については、「第 2 章 ボーリング柱状図編 8-4-20 L 様式:試料採取」の試料番号と必ず一致させること。なお、試料のない試験・調査については省略する。

#### (10) 試料採取情報

試料採取情報として、「乱さない試料」、「乱した試料」の区分を記入する。なお、試料のない試験・調査については省略する。

#### (11) 試験上端深度・試験下端深度

試料採取を伴う試験の場合、試験において使用した供試体の上端深度・下端深度を入力する。ボーリング孔を利用した原位置試験の場合は、試験の上端深度・下端深度を入力する。単位は GL-m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

なお、ボーリング孔を利用した原位置試験などで範囲のない点の深度の試験については、上端深度、下端深度に同一の値を記入する。

#### (12) 試験開始・終了年月日

土質試験及び地盤調査の実施年月日を記述する。西暦で 2002 年 1 月 29 日の場合、2002-01-29 のように記述する。試験開始日と終了日とが同一年月日の場合にも、終了日を省略せずに開始年月日と同一データを入力する。

#### (13) 試験者

試験・調査者氏名を記入する。複数名を記入する場合には、「,(カンマ)」区切りとする。

#### (14) 各種試験コメント

各試験に対するコメントを記入する。内容は、受注者の任意とするが、当該調査以外のボーリング孔(既設孔)を利用して試験・調査を実施した場合は、既往ボーリング調査の業務件名及びボーリング連番を記入することが望ましい。

#### (15) データ表現

表 3-1の「データ表現」の定義は以下の通りとする。

##### 1) 全角文字

JIS X0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字。(重複符号化の原則に基づき、全角文字については、JIS X 0208 から数字とラテン文字を除くこととする。)

2) 半角英数字

JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いた文字。

3) 半角英数大文字

「半角英数字」からラテン小文字(LATIN SMALL LETTER A ~ Z)を除いた文字。

4) 半角数字

JIS X 0201 で規定されている文字のうちの数字(DIGIT ZERO ~ NINE)及び小数点(.)のみ。

表 3-2 JGS における各種試験と基準番号の一覧表(土質試験)

試験分類	JGS 基準番号	JGS規格・基準名	JIS規格番号	JGSのデータ シートの有無
試料調製	JGS 0101-2000	土質試験のための乱した土の試料調整方法	JIS A 1201-2000	×
	JGS 0102-2000	力学試験のための乱さない粘性土試料の取扱い方法		×
物理試験	JGS 0111-2000	土粒子の密度試験方法	JIS A 1202-1999	
	JGS 0121-2000	土の含水比試験方法	JIS A 1203-1999	
	JGS 0122-2000	電子レンジを用いた土の含水比試験方法		含水比試験準用
	JGS 0131-2000	土の粒度試験方法	JIS A 1204-2000	
	JGS 0132-2000	石分を含む地盤材料の粒度試験方法		
	JGS 0135-2000	土の細粒分含有率試験方法	JIS A 1223-2000	
	JGS 0141-2000	土の液性限界・塑性限界試験方法	JIS A 1205-1999	
	JGS 0142-2000	フォールコンを用いた土の液性限界試験方法		
	JGS 0145-2000	土の収縮定数試験方法	JIS A 1209-2000	
	JGS 0151-2000	土の保水性試験方法		
	JGS 0161-2000	砂の最小密度・最大密度試験方法	JIS A 1224-2000	
	JGS 0191-2000	土の湿潤密度試験方法	JIS A 1225-2000	
	化学試験	JGS 0211-2000	土懸濁液のpH試験方法	
JGS 0212-2000		土懸濁液の電気伝導率試験方法		
JGS 0221-2000		土の強熱減量試験方法	JIS A 1226-2000	
JGS 0231-2000		土の有機炭素含有量試験方法		
JGS 0241-2000		土の水溶性成分試験方法		
土の分類	JGS 0051-2000	地盤材料の工学的分類方法		
透水試験	JGS 0311-2000	土の透水試験方法	JIS A 1218-1998	
圧密試験	JGS 0411-2000	土の段階載荷による圧密試験方法	JIS A 1217-2000	
	JGS 0412-2000	土の定ひずみ速度載荷による圧密試験方法	JIS A 1227-2000	
せん断試験	JGS 0511-2000	土の一軸圧縮試験方法	JIS A 1216-1998	
	JGS 0520-2000	土の三軸試験の供試体作製・設置方法		
	JGS 0521-2000	土の非圧密非排水(UU)三軸圧縮試験方法		
	JGS 0522-2000	土の圧密非排水(CU)三軸圧縮試験方法		
	JGS 0523-2000	土の圧密非排水(C <sub>U</sub> )三軸圧縮試験方法		
	JGS 0524-2000	土の圧密排水(CD)三軸圧縮試験方法		
	JGS 0525-2000	土のK <sub>0</sub> 圧密非排水三軸圧縮(K <sub>0</sub> CUC)試験方法		
	JGS 0526-2000	土のK <sub>0</sub> 圧密非排水三軸伸張(K <sub>0</sub> CUE)試験方法		
	JGS 0527-2000	不飽和土の三軸圧縮試験方法		
	JGS 0530-2000	粗粒土の三軸試験の供試体作製・設置方法		
	JGS 0541-2000	土の繰返し非排水三軸試験方法		
	JGS 0542-2000	地盤材料の変形特性を求めるための繰返し三軸試験方法		
	JGS 0543-2000	土の変形特性を求めるための中空円筒供試体による繰返しねじりせん断試験方法		
	JGS 0550-2000	土のねじりせん断試験用中空円筒供試体の作製・設置方法		
	JGS 0551-2000	土の中空円筒供試体によるねじりせん断試験方法		
	JGS 0560-2000	土の圧密定体積一面せん断試験方法		
	JGS 0561-2000	土の圧密定圧一面せん断試験方法		
安定化試験	JGS 0711-2000	突固めによる土の締固め試験方法	JIS A 1210-1999	
	JGS 0716-2000	締固めた土のコン指数試験方法	JIS A 1228-2000	
	JGS 0721-2000	CBR試験方法	JIS A 1211-1998	
	JGS 0811-2000	安定処理土の突固めによる供試体作製方法		参考例
	JGS 0812-2000	安定処理土の静的締固めによる供試体作製方法		参考例
	JGS 0821-2000	安定処理土の締固めをしない供試体作製方法		参考例
JGS 0831-2000	薬液注入による安定処理土の供試体作製方法		参考例	
試験機用力計	JGS 0004-2000	土質試験機用力計基準		×

表 3-3 JGS における各種試験と基準番号の一覧表(岩の試験・調査)

試験分類	JGS 基準番号	JGS規格・基準名	JIS規格番号	JGSのデータ シートの有無
物理試験	JGS 2110-1998	岩石の超音波速度測定方法		×
	JGS 2121-1998	岩石の吸水膨張試験方法		×
	JGS 2132-2000	岩石の密度試験方法		×
	JGS 2134-2000	岩石の含水比試験方法		×
	JGS 2521-2000	岩石の一軸圧縮試験方法		×
	JGS 2531-2000	岩石の非圧密非排水(UU)三軸圧縮試験方法		×

表 3-4 JGS における各種試験と基準番号の一覧表(地盤調査)

試験分類	JGS 基準番号	JGS規格・基準名	JIS規格番号	JGSのデータ シートの有無
物理検層	JGS 1121-1995	地盤の電気検層方法		×
	JGS 1122-1995	地盤の弾性波速度検層方法		×
サンプリング	JGS 1221-1995	固定ピストン式シンウォールサンブラーによる土の乱さない試料の採取方法		
	JGS 1222-1995	ロータリー式二重管サンブラーによる土の乱さない試料の採取方法		×
	JGS 1223-1995	ロータリー式三重管サンブラーによる土の乱さない試料の採取方法		×
	JGS 1224-1995	ロータリー式スリーブ内蔵二重管サンブラーによる試料の採取方法		×
	JGS 1231-1995	ブロックサンプリングによる土の乱さない試料の採取方法		×
地下水調査	JGS 1311-1995	ボーリング孔を利用した砂質地盤の地下水位測定方法		×
	JGS 1312-1995	観測井による砂質地盤の地下水位測定方法		×
	JGS 1313-1995	ボーリング孔を利用した電気式間隙水圧計による間隙水圧の測定方法		×
	JGS 1314-1995	ボーリング孔を利用した透水試験方法		
	JGS 1315-1995	揚水試験方法		×
	JGS 1316-1995	締め固めた地盤の透水試験方法		×
	JGS 1321-1995	湧水圧による岩盤の透水試験方法		×
	JGS 1322-1995	定圧注水による岩盤の透水試験方法		×
	JGS 1323-1995	ルジオン試験方法		×
サウンディング		土の標準貫入試験方法	JIS A 1219-1995	
		オランダ式二重管コーン貫入試験方法	JIS A 1220-1995	
		スウェーデン式サウンディング試験方法	JIS A 1221-1995	
	JGS 1411-1995	原位置ベーンせん断試験方法		
	JGS 1421-1995	孔内水平載荷試験方法		参考例
	JGS 1431-1995	ポータブルコーン貫入試験方法		
	JGS 1433-1995	簡易動的コーン貫入試験方法		
載荷試験		道路の平板載荷試験方法	JIS A 1215-1995	
		現場CBR試験方法	JIS A 1222-1995	
	JGS 1521-1995	地盤の平板載荷試験方法		
現場密度		砂置換法による土の密度試験方法	JIS A 1214-1995	
	JGS 1611-1995	突き砂による土の密度試験方法		
	JGS 1612-1995	水置換による土の密度試験方法		
	JGS 1613-1995	コアカッターによる土の密度試験方法		
	JGS 1614-1995	Ri計器による土の密度試験方法		×
現場計測	JGS 1711-1995	変位杭を用いた軟弱地盤の地表面変位測定方法		×
	JGS 1712-1995	沈下板を用いた地表面沈下量測定方法		×
	JGS 1718-1995	クロスアーム式沈下計を用いた盛土内鉛直変位測定方法		×
	JGS 1721-1995	水管式地盤傾斜計を用いた地表面の傾斜変動量測定方法		×
	JGS 1725-1995	伸縮計を用いた地表面移動量測定方法		×
	JGS 1731-1995	地中ひずみ計を用いた地すべり面測定方法		×
杭の載荷試験	JGS 1811-2000	杭の押込み試験方法		×
	JGS 1812-2000	杭の先端載荷試験方法		×
	JGS 1813-2000	杭の引抜き試験方法		×
	JGS 1814-2000	杭の鉛直交番載荷試験方法		×
	JGS 1815-2000	杭の急速載荷試験方法		×
	JGS 1816-2000	杭の衝撃載荷試験方法		×
	JGS 1831-1989	杭の水平載荷試験方法		×

### 3-3 土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD

土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD の名称は以下の規則による。

#### **GTST0100.DTD (GTST:Grand Test)**

- 0100 は DTD のバージョン番号 1.00 を示す。

なお、土質試験及び地盤調査管理ファイルの DTD は「7-1土質試験及び地盤調査管理ファイル (GTST0100.DTD:バージョン 1.00)の構造図」と「7-2 土質試験及び地盤調査管理ファイル (GTST0100.DTD:バージョン 1.00)の定義内容」に定めるとおりである。

#### 【解説】

記入例:DTD のバージョン 1.00 の場合は、GTST0100.DTD とする。バージョン 15.21 の場合は、GTST1521.DTD とする。

DTD ファイルは、「¥BORING¥TEST」フォルダ内に格納すること。「2-2 フォルダの構成」の図 2-1 を参照のこと。DTD ファイルは国土交通省が発表している Unicode で記載されたものを利用すること。

## 4 電子データシート

### 4-1 電子データシートのファイル形式

電子データシートのファイル形式は、PDF 形式とする。

#### 【解説】

PDF の作成方法については、「石川県土木設計業務等の電子納品要領(案) 付属資料 5 報告書ファイルの PDF 形式への変換について」を参照すること。ただし、しおり、サムネールについては特に作成する必要はない。

### 4-2 電子データシートのファイル名称

電子データシートのファイル名は、ファイルの命名規則に従い半角英数字 8 文字以内+3 文字以内(拡張子)とする。ファイルの名称は半固定とし、以下に定めるところによる。拡張子は「PDF」とする。

#### **TSNNNMMM.PDF (TS:Test)**

- NNN はボーリング箇所毎またはサイト毎の各試料に対して割り振られた連番(001 から開始、以下試料連番と呼ぶ)を示す。ただし、試料がない場合は 000 とする。
- MMM は試料毎の各試験に対して割り振られた連番(001 から開始)を示す。ただし、試料がない場合はボーリング、サイト毎に連番を割り振ることとする。

#### 【解説】

試料ごとに割り振られる番号(試料連番)NNN については、「乱した試料」、「乱さない試料」の区分に関係なく、番号を割り当てる。「乱した試料」、「乱さない試料」の区分は、「土質試験及び地盤調査管理ファイル」の「試料採取情報」に記入する。

各試験ごとに割り振られる連番 MMM は、同一箇所でも同一試験を複数回実施した場合(例えば、同じボーリング孔で孔内水平載荷試験を 3 回実施した場合など)、異なる連番を用いること。また、試験の種類に関わらず(例えば、同じボーリング孔を利用して「孔内水平載荷試験」を 3 回と「ボーリング孔を利用した透水試験」を 5 回実施した場合など)、すべて異なる番号を用いること。

記入例:1 番目の試料の 1 つ目の試験の電子データシートは TS001001.PDF である。2 番目の試料の 5 つ目の試験の電子データシートであれば TS002005.PDF となる。また、試料を使わない 1 つ目の試験の電子データシートは TS000001.PDF である。

#### 4-3 電子データシートの格納場所

電子データシートは、ボーリング、あるいはサイトごとにサブフォルダ(BRG0001、SIT0002 等)を作成し、格納すること。

##### 【解説】

電子データシートは、ボーリング、あるいはサイトごとに作成したフォルダ(BRG0001、SIT0002 等)に保存すること(「2-2 フォルダの構成」参照)。

#### 4-4 ファイルに含めるデータシートの数量

電子データシートは 1 試験ごとに 1 つの電子データシートのファイル(PDF ファイル)を作成することとする。

##### 【解説】

1 試験ごとに 1 つの電子データシートのファイル(PDF ファイル)を作成する。データシートが複数の様式によって構成されている場合は、1 つの電子データシートのファイルに複数のデータシートを含めても良いこととする。1 つのデータシートを複数の電子データシートのファイル(PDF ファイル)に分割してはならないものとする。

また、1 つのデータシートに複数の試料の試験データを含めてはならない。

### 5 データシート交換用データ

#### 5-1 データシート交換用データのファイル形式

電子データシート(PDF)を作成した基となるデータについて、それらが存在し、提出可能な場合は、それらの電子データを納品することとする。

##### 【解説】

データシート交換用データは、電子データシート(PDF)を作成した基となるデータについて、それらが存在し、提出可能な場合においてのみ、納品することとする。なお、ここで言う電子データとは、表計算のソフトウェアで作成した電子ファイルや専用のアプリケーションで作成した電子ファイル、後述する国総研による電子フォーマットに従った電子ファイルなどを示す。

データシート交換用データについては、国総研や社団法人地盤工学会で電子化フォーマットを

検討しているが、現段階では、実装方法等が確定していない。今後、同成果を基本に電子化を検討し、データシート交換用データの標準フォーマットとして採用することを予定している。将来的にこのフォーマットに対応した Viewer や入力システムが開発され、浸透すれば、電子成果品を本データに一元化することも可能となる。

## 5-2 データシート交換用データのファイル名称

データシート交換用データのファイル名は、ファイルの命名規則に従い半角英数字 8 文字以内 +3 文字以内(拡張子)とする。ファイルの名称は半固定とし、以下に定めるところによる。

### **TSNNNMMM.拡張子 (TS:Test)**

- NNN はボーリング箇所毎またはサイト毎の各試料に対して割り振られた連番(001 から開始)を示す。ただし、試料がない場合は 000 とする。
- MMM は試料毎の各試験に対して割り振られた連番(001 から開始)を示す。ただし、試料がない場合はボーリング、サイト毎に連番を割り振ることとする。

#### 【解説】

データシート交換用データのファイル名称は、対応する電子データシートと同一のファイル名称を使用すること。ただし、拡張子は任意とする。

## 5-3 データシート交換用データの格納場所

データシート交換用データは、電子データシートを保存するために作成したボーリング、あるいはサイトごとのフォルダ(BRG0001、SIT0002 等)の下に、「ORG」フォルダを作成して格納することとする。

#### 【解説】

データシート交換用データは、ボーリング、あるいはサイトごとのフォルダ「¥BORING¥TEST¥BRG0001」や「¥BORING¥TEST¥SIT0001」等のフォルダの下に、「ORG」フォルダを作成して格納することとする(「2-2 フォルダの構成」参照)。

## 5-4 ファイルに含める試験結果の数量

データシート交換用データは 1 試験ごとに 1 つの電子ファイルを作成することとする。

#### 【解説】

1 試験ごとに 1 つの電子ファイルを作成する。1 試験結果を複数の電子ファイルに分割してはならないものとする。

また、1 電子ファイルに複数の試料の試験データを含めてはならない。

## 6 土質試験結果一覧表データ

### 6-1 ファイルの形式

土質試験結果一覧表データのファイル形式は、XML 形式とする。

#### 【解説】

土質試験結果一覧表データのファイル形式については、ポーリング交換用データにあわせて XML 形式を採用した。XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、当面は Shift\_JIS とする。なお、提出する XML 文書には、DTD を埋め込む方式をとらず、外部ファイル参照方式を採用するものとする。

### 6-2 ファイルの名称

ファイル名は、ファイルの命名規則に従い半角英数字 8 文字以内+3 文字以内(拡張子)とする。ファイルの名称は **STLIST.XML** とし、「¥BORING¥TEST」の直下に保存する。

#### 【解説】

土質試験結果一覧表データは、XML 文章で記述する。ファイル名称を半角英数文字で「STLIST.XML」とする(STLIST:Soil Test List)。

土質試験結果一覧表データは、「¥BORING¥TEST」フォルダに格納すること。

### 6-3 ファイルに含める試料の数量

土質試験結果全てのデータを対象に 1 つの土質試験結果一覧表データのファイル(XML)を作成すること。

#### 【解説】

1 つの土質試験結果一覧表データのファイル(XML)に全試料の土質試験結果を含めるものとする。土質試験結果一覧表データを複数のファイル(XML)に分割してはならない。

### 6-4 データフォーマット

土質試験結果一覧表データのフォーマットについては、「7-4 土質試験結果一覧表データ記入項目」に従う。

#### 【解説】

データ記入内容については「7-4 土質試験結果一覧表データ記入項目」に従うものとする。

## 6-5 土質試験結果一覧表データの DTD

土質試験結果一覧表データの DTD の名称は以下の規則による。

### **ST0100.DTD**

- 0100 は DTD のバージョン番号 1.00 を示す(ST:Soil Test の略)。

なお、土質試験結果一覧表データの DTD は「7-5-1 土質試験結果一覧表データのデータ様式」と「7-5-2 土質試験結果一覧表データ(ST0100.DTD:バージョン 1.00)の定義内容」に定める通りである。

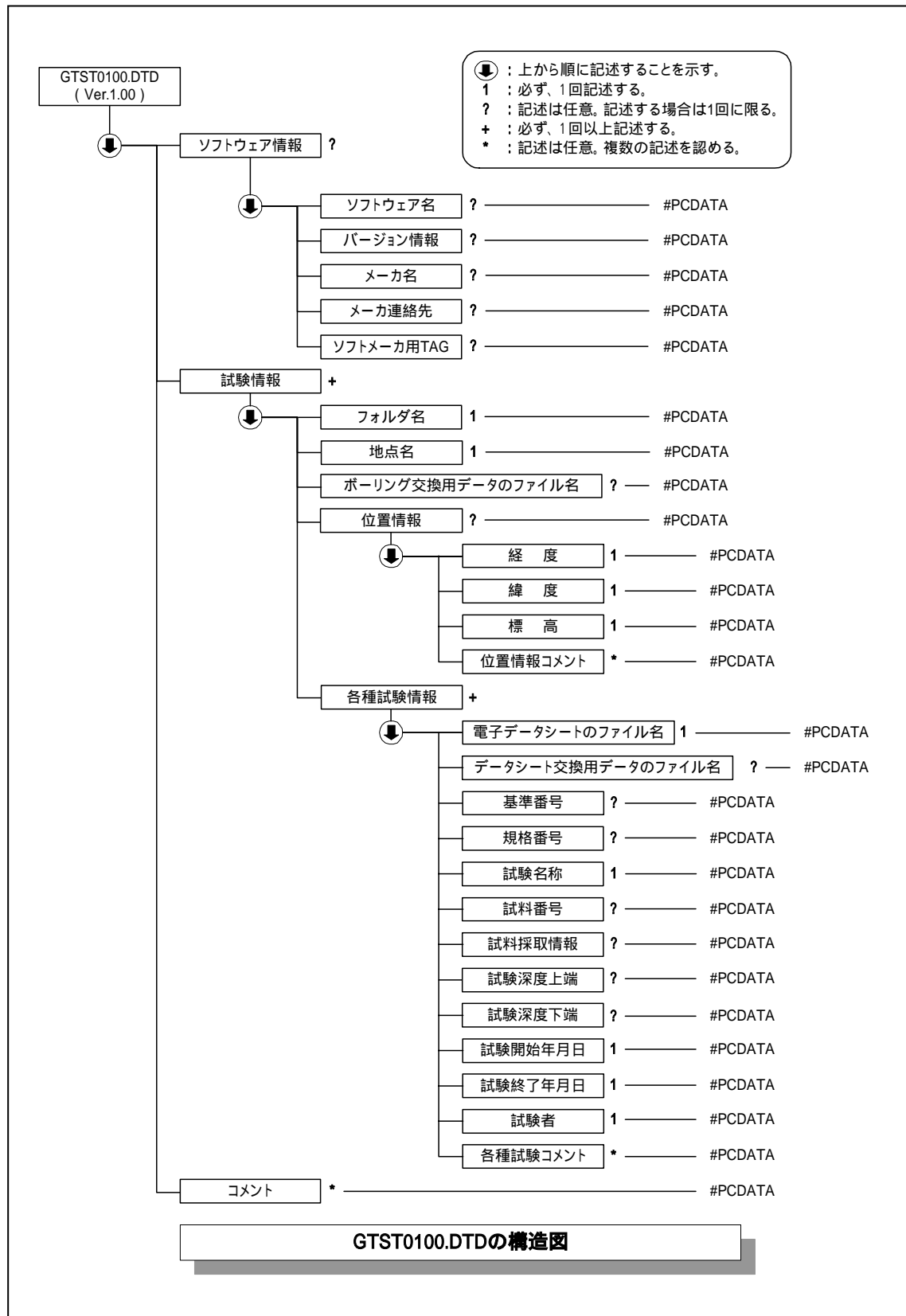
#### **【解説】**

記入例:DTD のバージョン 1.00 の場合は、ST0100.DTD とする。バージョン 12.12 の場合は、ST1212.DTD とする。

DTD ファイルは、「¥BORING¥TEST」フォルダ内に格納する。「2-2 フォルダの構成」の図 2-1を参照のこと。DTD ファイルは国土交通省が発表している Unicode で記載されたものを利用すること。

## 7 添付資料

### 7-1 土質試験及び地盤調査管理ファイル(GTST0100.DTD:バージョン 1.00)の構造図



## 7-2 土質試験及び地盤調査管理ファイル(GTST0100.DTD:バージョン 1.00)の定義内容

ここに示す DTD ファイルは、Unicode(UTF-16)で記述されたものを印字出力したものである。

国土交通省が発表する DTD は Unicode で記述されるものである。

```
<!-- ***** -->
<!-- GTST0100.DTD DTDバージョン:1.00 -->
<!-- (石川県土木設計業務等の電子納品要領(案)との整合をとり、DTDは標準のUnicodeとした。) -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT GRNDTEST (ソフトウェア情報?, 試験情報+, コメント*)>
<!ATTLIST GRNDTEST DTD_version CDATA #FIXED "1.00">

<!-- ***** -->
<!-- ソフトウェア情報 -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT ソフトウェア情報 (ソフトウェア名?, バージョン情報?, メーカー名?, メーカー連絡先?, ソフトメーカー用TAG?)>
<!ELEMENT ソフトウェア名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT バージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT メーカー名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT メーカー連絡先 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ソフトメーカー用TAG (#PCDATA)>

<!-- ***** -->
<!-- 試験情報 -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT 試験情報 (フォルダ名, 地点名, ボーリング交換用データのファイル名?, 位置情報?, 各種試験情報+)>
<!ELEMENT フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地点名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ボーリング交換用データのファイル名 (#PCDATA)>
<!-- ***** -->
<!-- 位置情報 -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT 位置情報 (経度, 緯度, 標高, 位置情報コメント*)>
<!ELEMENT 経度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 緯度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 標高 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 位置情報コメント (#PCDATA)>
<!-- ***** -->
<!-- 各種試験情報 -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT 各種試験情報 (電子データシートのファイル名, データシート交換用データのファイル名?, 基準番号?, 規格番号?, 試験名称, 試料番号?, 試料採取情報?, 試験上端深度?, 試験下端深度?, 試験開始年月日, 試験終了年月日, 試験者, 各種試験コメント*)>
<!ELEMENT 電子データシートのファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT データシート交換用データのファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 基準番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 規格番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験開始年月日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験終了年月日 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試験者 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 各種試験コメント (#PCDATA)>

<!-- ***** -->
<!-- コメント -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>
```

### 7-3 土質試験及び地盤調査管理ファイル(GRNDTST.XML:DTD バージョン 1.00)の記入例

XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、当面は Shift\_JIS とする。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE GRNDTEST SYSTEM "GTST0100.DTD">

<GRNDTEST DTD_version="1.00">

<ソフトウェア情報>
  <ソフトウェア名>XML Maker for Geological Survey Data</ソフトウェア名>
  <バージョン情報>1.00</バージョン情報>
  <メーカー名>財団法人 日本建設情報総合センター</メーカー名>
  <メーカー連絡先>東京都港区赤坂 7-10-20 TEL:03-3505-2402</メーカー連絡先>
  <ソフトメーカー用 TAG> JACIC では販売しておりません。</ソフトメーカー用 TAG>
</ソフトウェア情報>

<試験情報>
  <フォルダ名>BRG0001 </フォルダ名>
  <地点名>B-1 </地点名>
  <ボーリング交換用データのファイル名>BRG0001.XML </ボーリング交換用データのファイル名>
  <位置情報>
    <経度>139.599572222</経度>
    <緯度>35.261344444</緯度>
    <標高>93.25</標高>
    <位置情報コメント></位置情報コメント>
  </位置情報>
  <各種試験情報>
    <電子データシートのファイル名>TS001001.PDF</電子データシートのファイル名>
    <データシート交換用データのファイル名> TS001001.xls</データシート交換用データのファイル名>
    <基準番号>JGS 0111-2000</基準番号>
    <規格番号>JIS A 1202-1999</規格番号>
    <試験名称>土粒子の密度試験</試験名称>
    <試料番号>T001</試料番号>
    <試料採取情報>乱さない試料</試料採取情報>
    <試験上端深度>0.90</試験上端深度>
    <試験下端深度>1.10</試験下端深度>
    <試験開始年月日>2001-01-11</試験開始年月日>
    <試験終了年月日>2001-01-11</試験終了年月日>
    <試験者>日本太郎</試験者>
    <各種試験コメント></各種試験コメント>
  </各種試験情報>
  <各種試験情報>
    <電子データシートのファイル名>TS001002.PDF</電子データシートのファイル名>
    <データシート交換用データのファイル名></データシート交換用データのファイル名>
    <基準番号>JGS 0131-2000</基準番号>
    <規格番号>JIS A 1204-2000</規格番号>
    <試験名称>土の粒度試験</試験名称>
    <試料番号>T001</試料番号>
    <試料採取情報>乱さない試料</試料採取情報>
    <試験上端深度>0.90</試験上端深度>
    <試験下端深度>1.10</試験下端深度>
    <試験開始年月日>2001-01-11</試験開始年月日>
    <試験終了年月日>2001-01-13</試験終了年月日>
    <試験者>日本太郎</試験者>
    <各種試験コメント></各種試験コメント>
  </各種試験情報>
</試験情報>
```

<試験情報>  
<フォルダ名>SIT0001 </フォルダ名>  
<地点名>S-1 </地点名>  
<ボーリング交換用データのファイル名></ボーリング交換用データのファイル名>  
<位置情報>  
<経度>139.737372222</経度>  
<緯度>35.681344444</緯度>  
<標高>102.00</標高>  
<位置情報コメント></位置情報コメント>  
</位置情報>  
<各種試験情報>  
<電子データシートのファイル名>TS000001.PDF</電子データシートのファイル名>  
<データシート交換用データのファイル名> TS000001.xls</データシート交換用データのファイル名>  
<基準番号>JGS 1521-1995</基準番号>  
<規格番号></規格番号>  
<試験名称>地盤の平板載荷試験</試験名称>  
<試料番号></試料番号>  
<試料採取情報></試料採取情報>  
<試験上端深度></試験上端深度>  
<試験下端深度></試験下端深度>  
<試験開始年月日>2001-02-12</試験開始年月日>  
<試験終了年月日>2001-02-12</試験終了年月日>  
<試験者> </試験者>  
<各種試験コメント></各種試験コメント>  
</各種試験情報>  
</試験情報>  
  
</GRNDTEST>

7-4 土質試験結果一覧表データ記入項目

土質試験結果一覧表のデータを入力する。

土質試験結果一覧表																																												
調査名	地区土質調査(その2)																																											
整理年月日	20000528																																											
整理担当者	日本太郎																																											
フォルダ名	BRG0001			BRG0001			BRG0005			SIT0001																																		
地点名	B-1			B-1			B-5			S-1																																		
経度	1	3	5	3	5	5	8	2	0	0	0	1	3	5	3	5	5	8	2	0	0	0	1	3	5	3	5	5	5	5	0	0	0	1	3	5	3	5	5	6	9	0	0	0
緯度	3	4	5	9	5	3	2	0	0	0	3	4	5	9	5	3	2	0	0	0	3	5	0	0	0	2	5	0	0	0	3	4	5	9	5	8	7	0	0	0				
標高				0	2	3	m				0	2	3	m				1	2	9	2	m				5	3	8	m															
試料番号	T001			T002			T003			D0001																																		
上端深度(m)			3	0	0	(m)			9	0	0	(m)			1	2	0	0	(m)			0	5	0	(m)																			
下端深度(m)			3	7	0	(m)			9	8	0	(m)			1	2	8	0	(m)			1	0	0	(m)																			
湿潤密度	1	9	5	3	(g/cm <sup>3</sup> )	1	7	7	1	(g/cm <sup>3</sup> )	1	6	8	2	(g/cm <sup>3</sup> )	1	8	9	4	(g/cm <sup>3</sup> )																								
乾燥密度	1	6	5	2	(g/cm <sup>3</sup> )	1	2	4	1	(g/cm <sup>3</sup> )	1	0	9	2	(g/cm <sup>3</sup> )	1	5	1	3	(g/cm <sup>3</sup> )																								
土粒子の密度(g/cm <sup>3</sup> )	2	6	7	2	(g/cm <sup>3</sup> )	2	6	8	7	(g/cm <sup>3</sup> )	2	6	6	3	(g/cm <sup>3</sup> )	2	6	9	4	(g/cm <sup>3</sup> )																								
自然含水比(%)	1	8	2	(%)	4	2	7	(%)	5	4	0	(%)	2	5	2	(%)																												
間隙比	0	1	6	7	(%)	1	1	6	5	(%)	1	4	3	9	(%)	0	7	8	1	(%)																								
飽和度	7	8	8	(%)	9	8	5	(%)	9	9	9	(%)	8	6	9	(%)																												
粒度組成(石)	0	0	(%)	0	0	(%)	0	0	(%)	0	0	(%)	0	0	(%)																													
粒度組成(礫)	2	8	5	(%)	0	0	(%)	0	0	(%)	0	0	(%)																															
粒度組成(砂)	4	5	9	(%)	2	4	3	(%)	8	0	(%)	7	9	0	(%)																													
粒度組成(シルト)	2	0	4	(%)	5	6	5	(%)	5	7	5	(%)	1	4	2	(%)																												
粒度組成(粘土)	5	2	(%)	1	9	2	(%)	3	4	5	(%)	6	8	(%)																														
最大粒径	1	9	0	0	(mm)	0	8	5	0	(mm)	0	2	5	0	(mm)	2	5	0	0	(mm)																								
均等係数	5	9	0										1	2	5																													
液性限界(%)				(%)	4	8	3	(%)	6	6	7	(%)				(%)																												
塑性限界(%)				(%)	2	7	6	(%)	3	2	9	(%)				(%)																												
塑性指数					2	0	7		3	3	8																																	
地盤材料(分類名)	細粒分質礫質砂			砂質粘土			粘土(高液性限界)			細粒分質砂																																		
地盤材料(分類記号)	SFG			CLS			CH			SF																																		
圧密試験方法																																												
圧縮指数					0	3	9	5					0	5	9	5																												
圧密降伏応力				(kN/m <sup>2</sup> )	1	1	0	0	(kN/m <sup>2</sup> )	1	5	2	0	(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )																									
体積圧縮係数			E	(m <sup>2</sup> /kN)			E	(m <sup>2</sup> /kN)	7	3	2	E	-0	4	(m <sup>2</sup> /kN)			E	(m <sup>2</sup> /kN)																									
圧密係数				(cm <sup>2</sup> /d)				(cm <sup>2</sup> /d)				4	6	5	(cm <sup>2</sup> /d)				(cm <sup>2</sup> /d)																									
圧力範囲	78.5 ~ 157.0																																											
一軸圧縮強さ1				(kN/m <sup>2</sup> )		7	5	2	(kN/m <sup>2</sup> )		9	9	5	(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )																									
一軸圧縮強さ2				(kN/m <sup>2</sup> )		7	1	0	(kN/m <sup>2</sup> )		9	6	0	(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )																									
一軸圧縮強さ3				(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )																									
一軸圧縮強さ4				(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )					(kN/m <sup>2</sup> )																									
破壊ひずみ1				(%)		3	2	(%)		4	3	(%)				(%)																												
破壊ひずみ2				(%)		3	6	(%)		4	7	(%)				(%)																												
破壊ひずみ3				(%)				(%)				(%)				(%)																												
破壊ひずみ4				(%)				(%)				(%)				(%)																												
鋭敏比										8	5																																	
せん断試験条件	0	4			0	1			0	1			0	4																														
せん断強さ(全応力)		3	6	9	(kN/m <sup>2</sup> )		4	0	2	(kN/m <sup>2</sup> )		5	1	3	(kN/m <sup>2</sup> )		2	9	2	(kN/m <sup>2</sup> )																								
せん断抵抗角(全応力)	3	7	4	0	度(10進法)	5	4	0	度(10進法)	1	5	0	度(10進法)	3	5	3	0	度(10進法)																										
せん断強さ(有効応力)				(kN/m <sup>2</sup> )				(kN/m <sup>2</sup> )				(kN/m <sup>2</sup> )				(kN/m <sup>2</sup> )																												
せん断抵抗角(有効応力)				度(10進法)				度(10進法)				度(10進法)				度(10進法)																												
試料の状態	1				1				1																																			

【解説】

(1) 調査名(文字)

業務名称を入力する。入力に当たっては、「石川県土木設計業務等の電子納品要領(案)」の業務管理ファイルにおける「業務名称」と一致させること。

例: 地区土質調査(その2)

地区土質調査(その2)

(2) 整理年月日(整数)

土質試験結果一覧表データを整理した年月日を入力する。

例:2000年5月28日

2	0	0	0
---	---	---	---

年 

0	5
---	---

月 

2	8
---	---

日

### (3) 整理担当者(文字)

整理担当者の氏名を入力する。複数名を記入する場合には、「,(カンマ)」区切りとする。

例:日本太郎

日本太郎
------

### (4) フォルダ名(文字)

電子データシート、データシート交換用データを保存したフォルダ名を入力する(「2-3 フォルダの名称」参照)。

例:BRG0001

BRG0001
---------

例:SIT0002

SIT0002
---------

### (5) 地点名(文字)

試料採取を行ったボーリング名、あるいはサイト名を記入する。「土質試験及び地盤調査管理ファイル」に記述する「地点名」と名称を一致させること(「3-1 土質試験及び地盤調査管理ファイルの構成」参照)。

また、当該調査で実施したボーリングについては、「第2章 ボーリング柱状図編 8-4-2 A様式: 標題情報」のボーリング名と名称を一致させること。

例:B-1

B-1
-----

### (6) 経度・緯度(整数・実数)

試料採取地点の経度・緯度について入力する。ボーリング孔から試料採取を行った場合は、ボーリング孔口の経度・緯度を、それ以外の場合(サイトの場合)は、試料採取箇所(の)の経度・緯度を入力する。サイトの場合で、対象範囲が広範囲に渡る場合は、代表位置の経度・緯度を入力する。

当該調査で実施したボーリングについては、「第2章 ボーリング柱状図編 8-4-2 A様式: 標題情報」で入力する経度・緯度と値を一致させること。

例:経度 135度 49分 58.2秒の場合

1	3	5	4	9	5	8	.	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例:緯度 34度 59分 53.2345秒の場合

3	4	5	9	5	3	.	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

### (7) 標高(実数)

ボーリングの場合は、孔口標高を記入する。サイトの場合は、代表位置の標高を記入する。標高値についてはT.P.(トウキョウペール)表記とする。

また、当該調査で実施したボーリングについては、「第2章 ボーリング柱状図編 8-4-2 A様式: 標題情報」で入力する標高と値を一致させること。

例:T.P. +0.23m

			0	.	2	3
--	--	--	---	---	---	---

**(8) 試料番号(文字)**

試料番号を入力する。当該調査で実施したボーリング孔から試料採取を行った場合、「第2章ボーリング柱状図編 8-4-20 L様式:試料採取」の試料番号と一致させること。

例:試料番号 T001

T001
------

**(9) 上端深度・下端深度(実数)**

試験において使用した供試体の上端深度、下端深度を記入する。単位は GL.-m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで入力する。

例:深度 10.00 ~ 10.84m

	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

**(10) 湿潤密度・乾燥密度(実数)**

試料の湿潤密度、乾燥密度を入力する。整数部は 1 桁までで、小数点以下を 3 桁の実数として入力する(単位は g/cm<sup>3</sup>)。

例:湿潤密度 1.953 g/cm<sup>3</sup>、乾燥密度 1.652 g/cm<sup>3</sup>

1	.	9	5	3	1	.	6	5	2
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

**(11) 土粒子の密度(実数)**

試料の土粒子の密度を入力する。整数部 1 桁、小数点以下 3 桁の実数として入力する(単位は g/cm<sup>3</sup>)。

例:土粒子の密度 2.672 g/cm<sup>3</sup>

2	.	6	7	2
---	---	---	---	---

**(12) 自然含水比(実数)**

試料の自然含水比を入力する。整数部 3 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は%)。

例:自然含水比 18.2 %

	1	8	.	2
--	---	---	---	---

**(13) 間隙比(実数)**

試料の間隙比を入力する。整数部 2 桁まで、小数点以下 3 桁の実数として入力する。

例:間隙比 0.617

	0	.	6	1	7
--	---	---	---	---	---

**(14) 飽和度(実数)**

試料の飽和度を入力する。整数部 3 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は%)。

例:飽和度 78.8%、

	7	8	.	8
--	---	---	---	---

**(15) 粒度組成(実数)**

石、礫、砂、シルト、粘土分の組成比を入力する。整数部 3 桁まで、小数点以下 1 桁の実数で入力する(単位は%)。

例:シルト分 73%

	7	3	.	0
--	---	---	---	---

**(16) 最大粒径(実数)**

試料の最大粒径を入力する。整数部 3 桁まで、小数点以下 3 桁の実数として入力する(単位は mm)。

例:最大粒径 19.0mm

	1	9	.	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---

**(17) 均等係数(実数)**

試料の均等係数を入力する。整数部 3 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する。

例:均等係数 11.0

	1	1	.	0
--	---	---	---	---

**(18) 液性限界・塑性限界(実数)**

試料の液性限界、塑性限界をそれぞれ入力する。整数部 4 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は%)。

例:液性限界 48.3 %、塑性限界 27.6 %

		4	8	.	3
		2	7	.	6

**(19) 塑性指数(実数)**

塑性指数を入力する。整数部 4 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する。

例:塑性指数 20.7

		2	0	.	7
--	--	---	---	---	---

**(20) 地盤材料の分類(文字)**

地盤材料の分類名、分類記号を入力する。

例:細粒分質礫質砂(SFG)

地盤材料の分類名

細粒分質礫質砂
---------

分類記号 SFG

SFG
-----

**(21) 圧密試験方法(コード・文字)**

圧密試験の方法を

表 7-1に従いコード入力する。「9 その他」を選択した場合にはその内容について文字入力を行う。

例:土の段階載荷による圧密試験

1	
---	--

例:土の定ひずみ速度載荷による圧密試験

2	
---	--

例:規格外:浸透圧密試験

9	浸透圧密試験
---	--------

表 7-1 圧密試験方法コード

コード	圧密試験方法	規格・基準
1	土の段階載荷による圧密試験	JIS A 1217
2	土の定ひずみ速度載荷による圧密試験	JIS A 1227
9	その他	-

**(22) 圧縮指数(実数)**

圧縮指数を入力する。整数部 1 桁まで、小数点以下 3 桁の実数として入力する。

例:圧縮指数 0.395

0	.	3	9	5
---	---	---	---	---

**(23) 圧密降伏応力(実数)**

圧密降伏応力を入力する。整数部 4 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は kN/m<sup>2</sup>)。

例:圧密降伏応力 110 kN/m<sup>2</sup>

	1	1	0	.	0
--	---	---	---	---	---

**(24) 体積圧縮係数(実数)**

体積圧縮係数を入力する。有効数字 3 桁の浮動小数点表示で表す(単位は m<sup>2</sup>/kN)。基数部は必ず 1.00 ~ 9.99 の範囲とし、指数部は+99 ~ -99 の範囲とする。

例:体積圧縮係数 7.34 × 10<sup>-4</sup> kN/m<sup>2</sup>

7	.	3	4	E		0	4
---	---	---	---	---	--	---	---

**(25) 圧密係数(整数)**

圧密係数を整数入力する(単位は cm<sup>2</sup>/d)。

例:圧密係数 465 cm<sup>2</sup>/d

		4	6	5
--	--	---	---	---

**(26) 圧力範囲(文字)**

体積圧縮係数、圧密係数を算定した時の圧力範囲を入力する。

例:圧力範囲 p=111 kN/m<sup>2</sup>

p=111 kN/m <sup>2</sup>
-------------------------

**(27) 一軸圧縮強さ 1 ~ 4(実数)**

一軸圧縮強さを入力する。整数部 4 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は kN/m<sup>2</sup>)。供試体数が複数個の場合、それぞれの値を入力する。

例:一軸圧縮強さ 75.2

		7	5	.	2
--	--	---	---	---	---

**(28) 破壊ひずみ 1~4(実数)**

破壊ひずみを入力する。整数部 3 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は%)。  
供試体数が複数個の場合、それぞれの値を入力する。

例:破壊ひずみ 4.8%

		4	.	8
--	--	---	---	---

**(29) せん断試験条件(コード)**

せん断試験条件を表 7-2 の試験条件コード表より選択して入力する。「99 その他」を選択した場合にはその内容について文字入力を行う。

例:土の圧密非排水(CU)三軸圧縮試験

0	2	
---	---	--

表 7-2 せん断試験の条件コード

コード	試験条件	規格・基準
01	土の非圧密非排水(UU)三軸圧縮試験	JGS 0521
02	土の圧密非排水(CU)三軸圧縮試験	JGS 0522
03	土の圧密非排水(CU)三軸圧縮試験	JGS 0523
04	土の圧密排水(CD)三軸圧縮試験	JGS 0524
05	土の Ko 圧密非排水三軸圧縮 (KoCUC) 試験	JGS 0525
06	土の Ko 圧密非排水三軸伸張 (KoCUE) 試験	JGS 0526
07	不飽和土の三軸圧縮試験	JGS 0527
08	土の圧密定体積一面せん断試験	JGS 0560
09	土の圧密定圧一面せん断試験	JGS 0561
10	土の中空円筒供試体によるねじりせん断試験	JGS 0551
11	土の繰返し非排水三軸試験	JGS 0541
12	地盤材料の変形特性を求めるための繰返し三軸試験	JGS 0542
13	土の変形特性を求めるための中空円筒供試体による繰返しねじりせん断試験	JGS 0543
99	その他	-

**(30) せん断強さ(全応力、有効応力)(実数)**

せん断強さを入力する。整数部 4 桁まで、小数点以下 1 桁の実数として入力する(単位は kN/m<sup>2</sup>)。

例:せん断強さ 34.3

		3	4	.	3
--	--	---	---	---	---

**(31) せん断抵抗角(全応力、有効応力)(実数)**

せん断抵抗角を入力する。整数部 2 桁まで、小数点以下 2 桁の実数として入力する(単位は度)。

例:せん断抵抗角 37.40

3	7	.	4	0
---	---	---	---	---

**(32) 試料の状態(コード)**

採取した試料を開封したときの状態を別途定めるコード表より選択して入力する。「異常なし」は供試体が均質でクラックの介在等の異常のないことを示す。

例:試料の状態 異常なし

1

**表 7-3 供試体状態コード(港湾局指定)**

1	異常なし
2	貝殻混じり(大きな貝殻)
3	クラック
4	礫混じり
5	砂混じり
6	シルト混じり
7	軟弱な部分あり
8	木片、有機物混じり

## 7-5 土質試験結果一覧表データのフォーマット

### 7-5-1 土質試験結果一覧表データのデータ様式

項目名称		単位	形式	
標題情報	調査名	-	文字	
	整理年月日	整理年	年	
		整理月	月	
		整理日	日	
	整理担当者	-	文字	
地点情報	フォルダ名	-	文字	
	地点名	-	文字	
	経度緯度情報	経度_度	度	整数
		経度_分	分	整数
		経度_秒	秒	実数
		緯度_度	度	整数
		緯度_分	分	整数
		緯度_秒	秒	実数
	標高	m	実数	
	土質試験結果	試料番号	試料番号	-
深度		上端深度	m	実数
		下端深度	m	実数
一般		湿潤密度	g/cm <sup>3</sup>	実数
		乾燥密度	g/cm <sup>3</sup>	実数
		土粒子の密度	g/cm <sup>3</sup>	実数
		自然含水比	%	実数
		間隙比	-	実数
		飽和度	%	実数
		粒度組成	石	%
礫			%	実数
砂			%	実数
シルト			%	実数
粘土			%	実数
最大粒径			mm	実数
均等係数			-	実数
コンシステンシー			液性限界	%
		塑性限界	%	実数
		塑性指数	-	実数
地盤材料の分類		地盤材料名	-	文字
		地盤材料記号	-	文字
圧密試験		試験方法	-	コード
			-	文字
		圧縮指数	-	実数
		圧密降伏応力	kN/m <sup>2</sup>	実数
		体積圧縮係数	m <sup>2</sup> /kN	実数
		圧密係数	cm <sup>2</sup> /d	整数
		圧力範囲	kN/m <sup>2</sup>	文字

項目名称		単位	形式	
土質試験結果	一軸試験	一軸圧縮強さ1	kN/m <sup>2</sup>	実数
		一軸圧縮強さ2	kN/m <sup>2</sup>	実数
		一軸圧縮強さ3	kN/m <sup>2</sup>	実数
		一軸圧縮強さ4	kN/m <sup>2</sup>	実数
		破壊ひずみ1	%	実数
		破壊ひずみ2	%	実数
		破壊ひずみ3	%	実数
		破壊ひずみ4	%	実数
	せん断	試験条件	-	コード
			-	文字
		せん断強さ(全応力)	kN/m <sup>2</sup>	実数
		せん断抵抗角(全応力)	度	実数
		せん断強さ(有効応力)	kN/m <sup>2</sup>	実数
		せん断抵抗角(有効応力)	度	実数
	試料の状態(港湾指定コード)		-	コード

## 7-5-2 土質試験結果一覧表データ(ST0100.DTD:バージョン 1.00)の定義内容

ここに示す DTD ファイルは、Unicode(UTF-16)で記述されたものを印字出力した例である。  
国土交通省が発表する DTD は Unicode で記述されるものである。

```
<!--*****-->
<!-- ST0100. DTD DTD バージョン 1.00 -->
<!-- (石川県土木設計業務等の電子納品要領(案)との整合をとり、DTD は標準の Unicode とした。) -->
<!--*****-->

<ELEMENT SOILTESTLIST ( 標題情報, 試験情報+, コメント*)>
<!ATTLIST SOILTESTLIST DTD_version CDATA #FIXED "1.00">

<!--*****-->
<!-- 標題情報 -->
<!--*****-->
<ELEMENT 標題情報 (調査名, 整理年月日, 整理担当者)>
<ELEMENT 調査名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 整理年月日 (#PCDATA)>
<ELEMENT 整理担当者 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!-- 試験情報 -->
<!--*****-->
<ELEMENT 試験情報 (地点情報, 土質試験結果)>
<!--*****-->
<!-- 地点情報 -->
<!--*****-->
<ELEMENT 地点情報 (地点情報_フォルダ名, 地点情報_地点名, 地点情報_経度_度, 地点情報_経度_分, 地点情報_経度_秒, 地点情報_緯度_度, 地点情報_緯度_分, 地点情報_緯度_秒, 地点情報_標高)>
<ELEMENT 地点情報_フォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_地点名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_経度_度 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_経度_分 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_経度_秒 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_緯度_度 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_緯度_分 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_緯度_秒 (#PCDATA)>
<ELEMENT 地点情報_標高 (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!-- 土質試験結果 -->
<!--*****-->
<ELEMENT 土質試験結果 (土質試験結果_試料番号, 土質試験結果_上端深度, 土質試験結果_下端深度, 土質試験結果_湿潤密度?, 土質試験結果_乾燥密度?, 土質試験結果_土粒子密度?, 土質試験結果_自然含水比?, 土質試験結果_間隙比?, 土質試験結果_飽和度?, 土質試験結果_粒度_石?, 土質試験結果_粒度_礫?, 土質試験結果_粒度_砂?, 土質試験結果_粒度_シルト?, 土質試験結果_粒度_粘土?, 土質試験結果_粒度_最大粒径?, 土質試験結果_粒度_均等係数?, 土質試験結果_液性限界?, 土質試験結果_塑性限界?, 土質試験結果_塑性指数?, 土質試験結果_地盤材料名?, 土質試験結果_地盤材料記号?, 土質試験結果_圧密試験方法コード?, 土質試験結果_圧密試験方法?, 土質試験結果_圧縮指数?, 土質試験結果_圧密降伏応力?, 土質試験結果_体積圧縮係数?, 土質試験結果_圧密係数?, 土質試験結果_圧力範囲?, 土質試験結果_一軸圧縮強さ 1?, 土質試験結果_一軸圧縮強さ 2?, 土質試験結果_一軸圧縮強さ 3?, 土質試験結果_一軸圧縮強さ 4?, 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 1?, 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 2?, 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 3?, 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 4?, 土質試験結果_せん断試験条件コード?, 土質試験結果_せん断試験条件?, 土質試験結果_せん断強さ_全応力?, 土質試験結果_せん断抵抗角_全応力?, 土質試験結果_せん断強さ_有効応力?, 土質試験結果_せん断抵抗角_有効応力?, 土質試験結果_試料状態?)>
<ELEMENT 土質試験結果_試料番号 (#PCDATA)>
<ELEMENT 土質試験結果_上端深度 (#PCDATA)>
<ELEMENT 土質試験結果_下端深度 (#PCDATA)>
<ELEMENT 土質試験結果_湿潤密度 (#PCDATA)>
<ELEMENT 土質試験結果_乾燥密度 (#PCDATA)>
<ELEMENT 土質試験結果_土粒子密度 (#PCDATA)>
```

```

<!ELEMENT 土質試験結果_自然含水比 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_間隙比 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_飽和度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_石 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_礫 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_砂 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_シルト (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_粘土 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_最大粒径 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_粒度_均等係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_液性限界 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_塑性限界 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_塑性指数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_地盤材料名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_地盤材料記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_圧密試験方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_圧密試験方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_圧縮指数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_圧密降伏応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_体積圧縮係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_圧密係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_圧力範囲 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸圧縮強さ 1 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸圧縮強さ 2 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸圧縮強さ 3 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸圧縮強さ 4 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 1 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 2 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 3 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 4 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_せん断試験条件コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_せん断試験条件 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_せん断強さ_全応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_せん断抵抗角_全応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_せん断強さ_有効応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_せん断抵抗角_有効応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土質試験結果_試料状態 (#PCDATA)>

<!-- ***** -->
<!--          コメント          -->
<!-- ***** -->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

```

### 7-5-3 土質試験結果一覧表データのXML(STLIST.XML)の記入例

XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、当面は Shift\_JIS とする。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE SOILTESTLIST SYSTEM "ST0100.dtd">
<SOILTESTLIST DTD_version="1.00">

<標題情報>
  <調査名> 地区土質調査(その2)</調査名>
  <整理年月日>2000-05-28</整理年月日>
  <整理担当者>日本太郎</整理担当者>
</標題情報>

<試験情報>

```

```

<地点情報>
  <地点情報_フォルダ名>BRG0001</地点情報_フォルダ名>
  <地点情報_地点名>B-1</地点情報_地点名>
  <地点情報_経度_度>135</地点情報_経度_度>
  <地点情報_経度_分>35</地点情報_経度_分>
  <地点情報_経度_秒>58.2000</地点情報_経度_秒>
  <地点情報_緯度_度>34</地点情報_緯度_度>
  <地点情報_緯度_分>59</地点情報_緯度_分>
  <地点情報_緯度_秒>53.2000</地点情報_緯度_秒>
  <地点情報_標高>0.23</地点情報_標高>
</地点情報>
<土質試験結果>
  <土質試験結果_試料番号>T001</土質試験結果_試料番号>
  <土質試験結果_上端深度>3.00</土質試験結果_上端深度>
  <土質試験結果_下端深度>3.70</土質試験結果_下端深度>
  <土質試験結果_湿潤密度>1.953</土質試験結果_湿潤密度>
  <土質試験結果_乾燥密度>1.652</土質試験結果_乾燥密度>
  <土質試験結果_土粒子密度>2.672</土質試験結果_土粒子密度>
  <土質試験結果_自然含水比>18.2</土質試験結果_自然含水比>
  <土質試験結果_間隙比>0.167</土質試験結果_間隙比>
  <土質試験結果_飽和度>78.8</土質試験結果_飽和度>
  <土質試験結果_粒度_石>0.0</土質試験結果_粒度_石>
  <土質試験結果_粒度_礫>28.5</土質試験結果_粒度_礫>
  <土質試験結果_粒度_砂>45.9</土質試験結果_粒度_砂>
  <土質試験結果_粒度_シルト>20.4</土質試験結果_粒度_シルト>
  <土質試験結果_粒度_粘土>5.2</土質試験結果_粒度_粘土>
  <土質試験結果_粒度_最大粒径>19.000</土質試験結果_粒度_最大粒径>
  <土質試験結果_粒度_均等係数>59.0</土質試験結果_粒度_均等係数>
  <土質試験結果_液性限界 ></土質試験結果_液性限界 >
  <土質試験結果_塑性限界></土質試験結果_塑性限界>
  <土質試験結果_塑性指数></土質試験結果_塑性指数>
  <土質試験結果_地盤材料名>細粒分質礫質砂</土質試験結果_地盤材料名>
  <土質試験結果_地盤材料記号>SFG</土質試験結果_地盤材料記号>
  <土質試験結果_圧密試験方法コード></土質試験結果_圧密試験方法コード>
  <土質試験結果_圧密試験方法></土質試験結果_圧密試験方法>
  <土質試験結果_圧縮指数></土質試験結果_圧縮指数>
  <土質試験結果_圧密降伏応力></土質試験結果_圧密降伏応力>
  <土質試験結果_体積圧縮係数></土質試験結果_体積圧縮係数>
  <土質試験結果_圧密係数></土質試験結果_圧密係数>
  <土質試験結果_圧力範囲></土質試験結果_圧力範囲>
  <土質試験結果_一軸圧縮強さ 1></土質試験結果_一軸圧縮強さ 1>
  <土質試験結果_一軸圧縮強さ 2></土質試験結果_一軸圧縮強さ 2>
  <土質試験結果_一軸圧縮強さ 3></土質試験結果_一軸圧縮強さ 3>
  <土質試験結果_一軸圧縮強さ 4></土質試験結果_一軸圧縮強さ 4>
  <土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 1></土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 1>
  <土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 2></土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 2>
  <土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 3></土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 3>
  <土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 4></土質試験結果_一軸試験破壊ひずみ 4>
  <土質試験結果_せん断試験条件コード>04</土質試験結果_せん断試験条件コード>
  <土質試験結果_せん断試験条件></土質試験結果_せん断試験条件>
  <土質試験結果_せん断強さ_全応力>36.9</土質試験結果_せん断強さ_全応力>
  <土質試験結果_せん断抵抗角_全応力>37.40</土質試験結果_せん断抵抗角_全応力>
  <土質試験結果_せん断強さ_有効応力></土質試験結果_せん断強さ_有効応力>
  <土質試験結果_せん断抵抗角_有効応力></土質試験結果_せん断抵抗角_有効応力>
  <土質試験結果_試料状態>1</土質試験結果_試料状態>
</土質試験結果>
</試験情報>
<試験情報>
  <地点情報>
    <地点情報_フォルダ名>BRG0001</地点情報_フォルダ名>
    <地点情報_地点名>B-1</地点情報_地点名>
    <地点情報_経度_度>135</地点情報_経度_度>

```

<地点情報\_経度\_分>35</地点情報\_経度\_分>  
 <地点情報\_経度\_秒>58.2000</地点情報\_経度\_秒>  
 <地点情報\_緯度\_度>34</地点情報\_緯度\_度>  
 <地点情報\_緯度\_分>59</地点情報\_緯度\_分>  
 <地点情報\_緯度\_秒>53.2000</地点情報\_緯度\_秒>  
 <地点情報\_標高>0.23</地点情報\_標高>  
 </地点情報>  
 <土質試験結果>  
 <土質試験結果\_試料番号>T002</土質試験結果\_試料番号>  
 <土質試験結果\_上端深度>9.00</土質試験結果\_上端深度>  
 <土質試験結果\_下端深度>9.80</土質試験結果\_下端深度>  
 <土質試験結果\_湿潤密度>1.771</土質試験結果\_湿潤密度>  
 <土質試験結果\_乾燥密度>1.241</土質試験結果\_乾燥密度>  
 <土質試験結果\_土粒子密度>2.687</土質試験結果\_土粒子密度>  
 <土質試験結果\_自然含水比>42.7</土質試験結果\_自然含水比>  
 <土質試験結果\_間隙比>1.165</土質試験結果\_間隙比>  
 <土質試験結果\_飽和度>98.5</土質試験結果\_飽和度>  
 <土質試験結果\_粒度\_石>0.0</土質試験結果\_粒度\_石>  
 <土質試験結果\_粒度\_礫>0.0</土質試験結果\_粒度\_礫>  
 <土質試験結果\_粒度\_砂>24.3</土質試験結果\_粒度\_砂>  
 <土質試験結果\_粒度\_シルト>56.6</土質試験結果\_粒度\_シルト>  
 <土質試験結果\_粒度\_粘土>19.2</土質試験結果\_粒度\_粘土>  
 <土質試験結果\_粒度\_最大粒径>0.850</土質試験結果\_粒度\_最大粒径>  
 <土質試験結果\_粒度\_均等係数>59.0</土質試験結果\_粒度\_均等係数>  
 <土質試験結果\_液性限界 >48.3</土質試験結果\_液性限界 >  
 <土質試験結果\_塑性限界>27.6</土質試験結果\_塑性限界>  
 <土質試験結果\_塑性指数>20.7</土質試験結果\_塑性指数>  
 <土質試験結果\_地盤材料名>砂質粘土</土質試験結果\_地盤材料名>  
 <土質試験結果\_地盤材料記号>CLS</土質試験結果\_地盤材料記号>  
 <土質試験結果\_圧密試験方法コード>1</土質試験結果\_圧密試験方法コード>  
 <土質試験結果\_圧密試験方法></土質試験結果\_圧密試験方法>  
 <土質試験結果\_圧縮指数>0.395</土質試験結果\_圧縮指数>  
 <土質試験結果\_圧密降伏応力>110.0</土質試験結果\_圧密降伏応力>  
 <土質試験結果\_体積圧縮係数></土質試験結果\_体積圧縮係数>  
 <土質試験結果\_圧密係数></土質試験結果\_圧密係数>  
 <土質試験結果\_圧力範囲></土質試験結果\_圧力範囲>  
 <土質試験結果\_一軸圧縮強さ 1>75.2</土質試験結果\_一軸圧縮強さ 1>  
 <土質試験結果\_一軸圧縮強さ 2>71.0</土質試験結果\_一軸圧縮強さ 2>  
 <土質試験結果\_一軸圧縮強さ 3></土質試験結果\_一軸圧縮強さ 3>  
 <土質試験結果\_一軸圧縮強さ 4></土質試験結果\_一軸圧縮強さ 4>  
 <土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 1>3.2</土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 1>  
 <土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 2>3.6</土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 2>  
 <土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 3></土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 3>  
 <土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 4></土質試験結果\_一軸試験破壊ひずみ 4>  
 <土質試験結果\_せん断試験条件コード>01</土質試験結果\_せん断試験条件コード>  
 <土質試験結果\_せん断試験条件></土質試験結果\_せん断試験条件>  
 <土質試験結果\_せん断強さ\_全応力>40.2</土質試験結果\_せん断強さ\_全応力>  
 <土質試験結果\_せん断抵抗角\_全応力>5.40</土質試験結果\_せん断抵抗角\_全応力>  
 <土質試験結果\_せん断強さ\_有効応力></土質試験結果\_せん断強さ\_有効応力>  
 <土質試験結果\_せん断抵抗角\_有効応力></土質試験結果\_せん断抵抗角\_有効応力>  
 <土質試験結果\_試料状態>1</土質試験結果\_試料状態>  
 </土質試験結果>  
 </試験情報>  
 <コメント> </コメント>  
 </SOILTESTLIST>